

2018/03/09(金)08:59

科目名称 Course title(Japanese)	地域連携論1		
科目名称(英語) Course title(English)	Community Collaboration I		
授業名称 Class name	地域連携論1		
教員名 Instructor	榎本 のぞみ		
開講年度学期 Year/Semester	2018年度 前期		
曜日時限 Class hours	木曜3限		
開講学科 Department	経営学部		
単位 Course credit	2.0	学年 Grade	1～4年生
科目区分 Course category	一般教養科目 キャリア形成を学ぶ科目群	履修形態 Compulsory/Elective	選択
概要 Descriptions	<p><概要> 環境、エネルギー、産業、雇用など、国や地域が抱える課題解決のために、産官学ならびにあらゆる団体のヨコの連携をとって事業環境整備や地域再生の取り組みが世界各地で展開されている。 持続可能な地域社会は、地域に技術や資源が存在するだけでは実現せず、それらを活かして機能させる人とのネットワークと信頼関係の構築、関係者相互の価値観の共有がカギとなる。地域連携論1・2はともに、これら社会の信頼関係、規範、ネットワークといった社会組織を重視するソーシャル・キャピタルの考え方をベースに、特に地域連携論1では、以下の、3部から構成され、よりコミュニティを総合的視点で分析するのに対し、</p> <p>1)一定期間で多くの成果を上げたドイツの地域再生戦略 2)ポールポラック提唱の貧困解決方法の普遍性と特殊性 3)ケースから学ぶシミュレーション</p> <p>後期地域連携論2では、より企業と大学を中心とした地域連携の取り組みや社会起業を中心に学ぶ。</p>		
目的 Objectives	<p><目的> 地域再生や振興の事例を通して、地域連携のあり方を学び、実際に地域が抱える課題解決に役立つ知識・ノウハウを修得し、国内外の自然・人間・社会を広く俯瞰できる能力を養うことを目的とする。</p>		
到達目標 Goals	<p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の現状を理解し、ポテンシャルを発掘する課題発見力を身につけ、実行に移す準備ができる。 ・地域の課題解決方法に関する創造的思考力を身につけ、実行に移せる準備ができる。 ・地域の産官学の連携では、信頼や協力関係構築の重要性について理解できる。 		
履修上の注意 Course notes prerequisites			
準備学習・復習 Preparation and review	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週、所定の範囲の資料を読んで、授業に臨む。 ・シミュレーションを行う週は、事前の課題が出される。 		
	<p>レポート 25% プレゼンテーション25%</p>		

成績評価方法 Performance grading policy	<p>予習・準備 25% 授業参加度 25%</p> <p>注1)成績評価は、出席7割以上を対象とする。 注2)5分以上を遅刻とし、遅刻3回で1回の欠席となる。 (富士見校舎から移動する人もいるので、厳格にはできないが、良識の範囲でと考える) 注3)30分以上の遅刻は欠席扱い(遅延照明がある場合を除く)。 注4)出席5回以下は、履修放棄とみなす。</p>
成績評価基準 Performance grading criteria	<p>S:到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を収めている A:到達目標を十分に達成している B:到達目標を達成している C:到達目標を最低限達成している D:到達目標を達成していない</p>
教科書 Textbooks/Readings	<p>『ドイツの地域再生戦略ーコミュニティマネジメント』 室田 昌子著、学芸出版社 Out of Poverty, Paul Polak 邦訳『世界一大きな問題のシンプルな解き方ー私が貧困解決の現場で学んだこと』ポールポラック著・東方雅美 訳、英治出版</p>
参考書 Course material	
授業計画 Class plan	<ol style="list-style-type: none"> 1. ドイツの地域連携:構図 2. ドイツの地域が抱える問題とその特徴 3. ドイツの地域再生:ミッション・戦略・アプローチ 4. ドイツの地域連携:主体・体制・オペレーション 5. ドイツの地域再生プロジェクト事例と内容 6. 問題解決 Out of Poverty に学ぶ1 地域の現状分析 7. 問題解決 Out of Poverty に学ぶ2 地域の問題と可能性 8. 問題解決 Out of Poverty に学ぶ3 ミッションと課題解決実現に向けての方法論 9. 考察1 問題の特定とそれに作用する諸要因 10. 考察2 可能・強みの特定とそれに作用する諸要因 11. シミュレーション1 対象地域の選定 12. シミュレーション2 対象地域の現状分析・問題の特定 13. シミュレーション3 ミッションと実現に向けての方法論 14. 継続性・持続可能性のために 15. プレゼンテーション、まとめ
教職課程 Teacher-training course	
備考 Remarks	<p>オフィスアワー: 水曜 12:50 - 14:20</p>
9986231	